

# 現代用語

経済混迷、政局迷走、原発深憂。  
差し迫る状況に向き合い、  
明日を見据えるための1,600ページ

65th  
Anniversary  
創刊65周年

# の

# 基礎知識

Encyclopedia of contemporary words

特集

- 3.11後、この国の選択
- 原発・放射能・自然エネルギー 15のQ&A
- 就活に成功する「現代用語」の活用術
- 時代語で辿る戦後グラフィティ



since 1948  
昭和23年創刊

# 2013

■巻末付録 ニュースのおさらい

自由国民版 2013.1

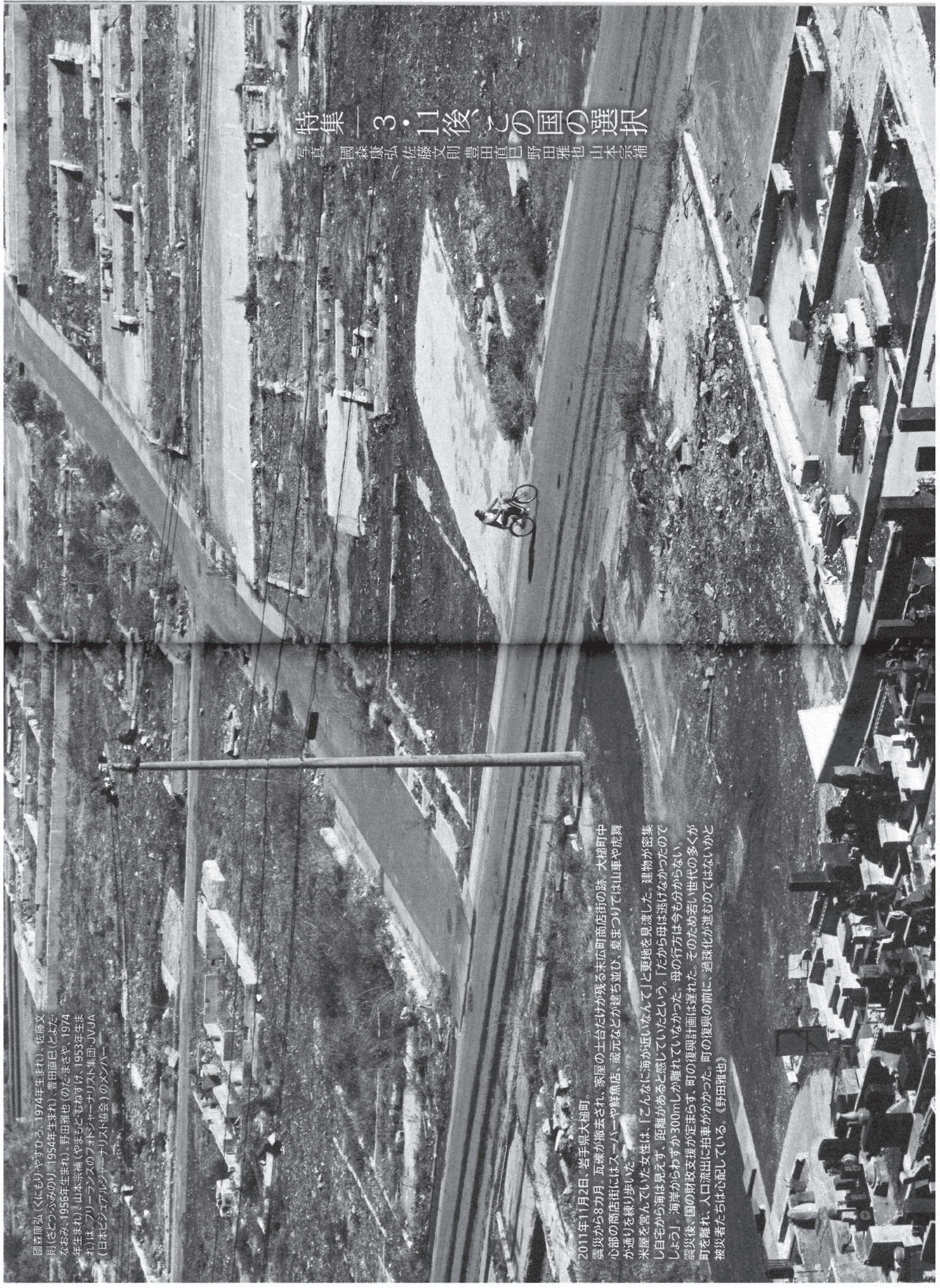
尖閣／竹島／普天間／オスプレイ／維新の会／ヒッグス粒子／山中教授ノーベル賞／消費税と社会保障／孤立死／活断層／南海トラフ／首都直下地震／原発ゼロ／もんじゅ／ユーロ危機／シリア情勢……気になる問題をきちんと理解し直そう！

# 特集 3・11後、この国の選択

写真 國森康弘 佐藤文則 豊田直日 野田雅也 山本宗福

國森康弘(くにもりやすひろ、1974年生まれ)、佐藤文則(さとうふみのり、1954年生まれ)、豊田直日(とよたなおみ、1956年生まれ)、野田雅也(のたまさや、1974年生まれ)、山本宗福(やまもとむねあすけ、1953年生まれ)、フリーランスのフォトジャーナリスト集団・JVJA(日本ビジュアルジャーナリスト協会)のメンバー

2011年11月2日、岩手県大槌町。震災から8カ月、瓦礫が撤去され、家屋の土台だけが残る末広町商店街の跡。大槌町中心部の商店街にはバーナーや鮮魚店、蔵元などが建ち並び、夏まつりでは山車や虎舞か通りを練り歩いた。米屋を営んでいた女性は、「こんなに海が近いなんて」と更地を見渡した。建物が密集し自宅から海は見えず、距離があると感じていたという。「だから母は逃げなかったのでしょう」。海岸からわずか300mしか離れていなかった。母の行方は今も分からない。震災後、国の財政支援が定まらず、町の復興計画は遅れた。そのため若い世代の多くが町を離れ、人口流出に拍車がかかった。町の復興の前に、過疎化が進むのではないかと被災者たちは心配している。《野田雅也》



# 時代観察

## 3・11からの復興が求められた1年、 2012年を象徴する五つの言葉。

武田 徹

評論家／恵泉女学園大学教授

たけだ・とおる●1958年生まれ。国際基督教大学大学院比較文化研究科博士課程修了。著書『流行人類学クロニクル』『私たちはこうして「原発大国」を選んだ』など。

この特集を  
読む

●ヘリコプターは飛んでいるときよりも、空中でホバリングしているときのほうが運転が難しく、危ないのだそう。国家のあり方も似たようなもの。経済成長期の社会は豊かさが日々増していく実感の中で小さな問題が表面化せずに済んでいるが、成長が止まった社会は、安定期に入ることなく、むしろ問題続出で舵取りに苦労させられる。

●戦後史を巨視的にみると1970年代以降の日本は成長なき不安定期に入ったといえるし、微視的にみれば90年代初頭の土地のバブル、ゼロ年代初頭のITバブルの崩壊後の停滞が続く中で安定は大きく損われた。2012年は3・11ショックからの復興が求められる1年となり、「決められない政治からの脱却」を標榜した野田政権だが、後に書く「原発ゼロ政策」を典型として重要な政策はほとんど決められなかった。例外は消費増税と尖閣諸島国有化だが、前者は小沢一郎に党を割る口実を与え、後者は中国の強烈な反発を招いた。

●決めなければ問題が先送りにされるのではない。問題はむしろ濃縮され、積み上がる。12年は沖縄返還、日中国交回復から共に40周年を迎える節目の年となったが、普天間基地問題は未解決のままだし、日中関係もいままでにない緊張状態となっている。こうした状況へ打開策が講じられないことに民心はあきれ、橋下維新の党や安倍自民党など、より強面で決定力のありそうな勢力への期待をいたずらに募らせる。しかし、そうした期待が成就されることが日本の未来に平和と繁栄をもたらすと素直には信じられない。これまた12年に大いに話題を集めた米軍の最新鋭ヘリコプター「オスプレイ」の多発する事故が示すように、空中浮遊状態の中でも、翼の角度を変えてまさに動き出そうとする瞬間が一番危ない。

●かくして動かない危うさと、動き始める危うさを共に感じた2012年。そんな1年間を象徴する言葉を五つ挙げてみた。

2012年を象徴する語

### ▼原発ゼロ

福島原発事故を受けて脱原発を求める声がこれまでになく高まった。

野田政権が実施した「討論型世論調査」でも、2030年時点の原子力発電依存度で「ゼロ」を支持する割合が46・7%と最も多かった。こうした動きを受けて政府は「エネルギー・環境戦略」に「2030年代に

原発稼働ゼロを可能とする」という目標を盛り込むことを一度は発表したが、その後の閣議で具体的目標としての明示の設定は見送られた。こうした方針転換は、脱原発がエネルギー不足や電力料金高騰を招いて国

内産業が立ちゆかなくなると懸念する産業界の意向を受けたといわれている。またすでに原発の生産能力を失っているアメリカが日米協力体制で第三世界への原発輸出を行うシナリオを用意しており、日本の勝手な脱

原発を認めなかったせいだともいわれる。

しかし、そこには原発立地地元への配慮もあったのだろう。1960〜70年代に原発誘致に手を挙げたのは高度成長に取り残され、過疎にあえていた地方自治体である。そうした原発立地地区では、原発の設置による固定資産税収入や、電源三法交付金、そして核燃料税がかるうじて地元自治体の財政を支えている構図がある。もちろん原発事故は一度起

きてしまえば周辺の居住は不可能となり、除染に時間がかかって帰村もままならず、地元以外に第2の故郷を作らざるを得なくなる、要するに立地地元コミュニティ自体が無残に破壊されることも福島的事例で明らかになった。だが、たとえそうであつても、いつ起きるかわからない「確率的な」原発事故のリスクを理由に、地域コミュニティが破産し、「確実に」崩壊することになる脱原発政策はのめないというのが地



元の偽らざる心情だろう。野田政権も、原発立地自治体に豊かな未来をもたらす新たな地方振興策を打ち出せていない以上、脱原発を正面に掲げられなかったというのが実情ではないか。こうした原発ゼロ政策の二転三転ぶりは、原発問題の複雑さを示している。

▼ナショナリズム [nationalism]  
ロンドン五輪の熱狂が封印を切ってしまったかのように、極東アジアでは領土領海問題が炎上。竹島(韓国名は独島)と尖閣諸島(中国名は釣魚島)の領有をめぐる日中韓の関係が悪化している。日本政府は尖閣諸島の国有化を敢行し、当然のごとく中国世論は反発、各地でいままでにない激しい反日デモが勃発した。日中共にネット右翼活動も活発化している。グローバルゼーションの時代にナショナルな国民国家の枠組みはもはや通用しないという声もあるが、こうした激しい応酬をみるとナショナリズムがいまだに大きな力を有していると痛感する。さらにいえばナショナリズムを過去の残滓(ざんし)と見下す姿勢こそが問題なのかもしれない。

例えば、戦前日本ではナショナリズムがファシズムになだれ込んでいった経緯があつたがゆえに、ナショナリズムを悪の権化のようにみなす風潮があるが、政党政治体制への絶望がその放棄を導いてファシズム体制を用意し、社会に対する不満が海外に向けて噴出した結果、排外的な性格を強めていった経緯を理解すべきだろう。要するにナショナリズムがファシズムに至るかどうかは国内経済、政治の舵取りしだいであり、「国民が国家を統治する」というナショナリズムの基本が正しく守られていれば、ナショナリズムからファシズムへの暴走もなかつたことになる。ナショナリズムをいかに健全に維持するか。ロンドン五輪の開会式ではイギリスが生んだ世界的娯楽作品『007』の主人公ジェームズ・ボンドとエリザベス女王がヘリコプターで五輪会場の上空を飛び、パラシュートで飛び降りる。そんな映像が流れる演出の後に女王の開会演説が始まった。そこにひとつのヒントがあつたと考えるべきではないか。他国のナショナリズムを自国のナショナリズムと同じように尊重するに

# 福島第一原発

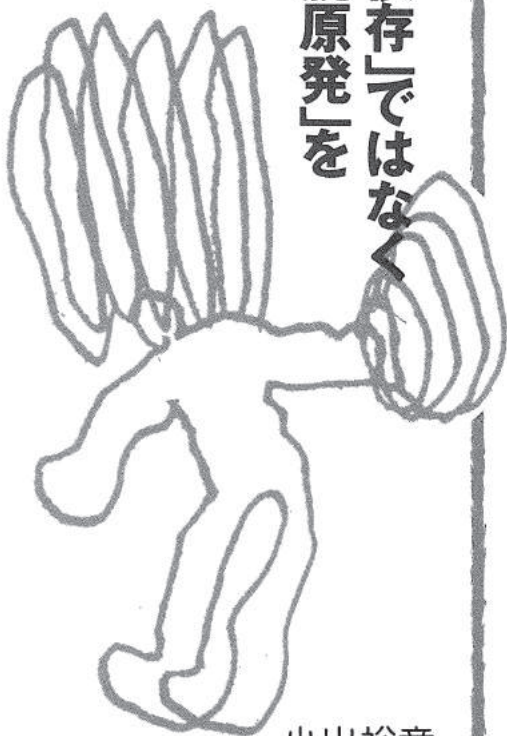
「脱原発依存」ではなく  
直ちに「脱原発」を

この特集を  
読む

●福島第一原子力発電所が、地震と津波に襲われてからすでに1年半以上の歳月が流れた。日本では、国が原子力開発のレールを敷き、電力会社をそのレールに乗せた。そして産業の屋台骨を背負う巨大産業が、原子力から利益を得ようとした。「原子カムラ」と呼ばれるようになったその巨大組織は、政治やマスコミにカネをばらまいて、それらを支配し、自由に操った。その周辺には中小零細企業が集まったし、地方の困窮した自治体も原子力にすがって生き延びようとした。もちろん、上昇志向と名誉欲の強い学者たちも原子カムラに加わった。そして、労働組合すらも生活の向上を求めて原子力に夢を託した。そして彼らは、周辺住民に被害を及ぼすような事故は決して起こらないと主張した。しかし、原子力発電所はそれが一度運転されてしまうと、炉心に放射性物質を蓄積していく。

●今日標準的となった100万<sup>キロワット</sup>の原子力発電所では、それが1年運転されるごとに、広島原爆が生み出した核分裂生成物の1000倍を超える核分裂生成物を生み出し、炉心に蓄積する。それは放射能であるがゆえに、放射線を放出する。放射線とはエネルギーそのものであり、一度運転してしまった原子炉の中には発熱体である放射性物質が膨大に貯まっている。それを冷却できなければ原子炉は溶融する。冷却には水を流す必要があるし、そのためにはポンプを動かす必要がある。そしてポンプを動かすためには電気が必要である。

●しかし、考慮する必要がないとされてきた発電所の全所停電が発生し、運転中だった1号機から3号機は炉心を冷却する手段を奪われてしまった。その結果、原子炉は次々と溶融し、大量の放射性物質を大気中、そして海へと流した。政府は2011年末に事故の収束宣言を出したが、事故は敷地内でも敷地外でもいまだに収束していない。



小出裕章

京都大学原子炉実験所助教

こいで・ひろあき ●1949年東京生まれ。東北大学大学院工学研究科修士課程修了。専門は放射線計測、原子力安全。

敷地内で続く  
被曝作業

敷地内では、これ以上の放射性物質の放出を何とか抑えようと、瞬時

の休みもなく苦闘が続いている。しかし、原子力発電所は放射性物質を抱えているがために、事故現場に人間が行くことができない。事故を「想定外」としたため、事故の進行を把握するための測定器の配置もな

い。通常運転時の原子炉の状況を知るために配置してあった測定器は事故後の過酷な環境のために次々と壊れていつている。手探りで危険な作業をするしかないが、溶け落ちた原子炉がいまどこにあるかすらわから

ない。国や東京電力は、いつかそれをつかみ出して安全な場所に移すと言っているが、おそらくそれもできない。たぶん、旧ソ連チェルノブイリ原発の事故でやったように「石棺」を作ってすべてを封じ込めるこ

# もんじゅ君とまなぶ! 原発・放射能・ 自然エネルギー 15のQ&A

監修=飯田哲也 文・絵=もんじゅ君

デザイン=宇賀田直人

もんじゅ君 高速増殖炉もんじゅのゆるキャラ。原発事故をきっかけにハイロを目指してツイッターを始め、フォロー数は約10万人。著書に「おしえて!もんじゅ君」、楽曲に「もんじゅ君音頭」など。フジロックなど各地のイベントにも参加。 \*JAEA非公認です

飯田哲也 認定NPO法人環境エネルギー政策研究所(ISEP)所長。京大大学院工学研究科原子核工学専攻修了。原子力産業や原子力安全規制などに従事後、北欧での研究活動を経てISEPを設立。「原子カムラ」という言葉の命名者として知られる。



Q.01



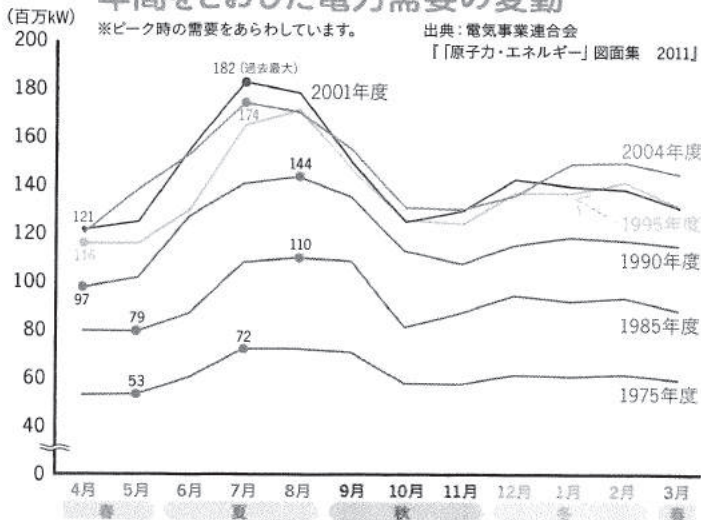
## 原発がないと 電気は足りないの?



原発ゼロでも夏の電力危機は回避  
「原発がないと電力不足で企業倒産」  
「熱中症も続出」なんてきくと、やっぱり原発は必要? って思っちゃうね。だけど2012年の夏は日本じゅうでほぼ原発ゼロのまま、年間でもっとも電力が必要な季節をのりきったんだよ。下の、電力の**最大需要**をあらわすグラフを見てね。7~8月が1年でいちばんたくさんいちどに電力が必要になるんだね。反対に、冷房も暖房も使わない春と秋は少なくてすむの。

もちろん、12年夏はなにもせずに電力が足りたわけじゃないよ。原発がないぶん、やすませていた**火力発電を焚**きまししたり、家庭も企業も**節電**をして、使える電力を増やしたんだよ。関西では夏で**1割の節電を達成**。12年夏は、関西電力管内で約11%、九州電力で約10%、四国電力で約8%も節電できたんだよ。夏がはじまる前は日本で稼働中の原発はゼロだったけれど、もともと原発にたよる割合が約半分と電力会社のなかでいちばん高か

### 年間をととした電力需要の変動



った関電は「そんなに節電できない」  
「計画停電をするかも」といって大飯  
原発3・4号機を稼働させたの。  
結果的には、電力需要のもっとも多かった日に仮に原発を止めていても小限の余裕はあったことが判明したの。だから、他の発電方法でもっとおぎなうとか、ピーク時はエリア内に知らせて節電を徹底するなど、原発がなくてものりきれそうだとわかったんだよ。

# 原子力・原発

この分野を  
読む



西尾 漢

原子力資料情報室共同代表

にしお・ばく ● 1947年生まれ。東京都出身。東京外国語大学ドイツ語学科中退。著書『原発は地球にやさしいか』『エネルギーと環境の話をしよう』ほか。「はんげんぱつ新聞」編集長。

●福島第一原発事故から1年余りがたった2012年7月までに、同事故の調査・検証に当たっていた各委員会の報告書が出揃った。政府の調査・検証委員会(委員長 畑村洋太郎 東京大学名誉教授)、国会の調査委員会(委員長 黒川清元 日本学術会議会長)、東京電力の調査委員会(委員長 山崎雅男 副社長)、それに「民間事故調」と呼ばれる独立検証委員会(委員長 北澤宏一 科学技術振興機構顧問)の報告書である。ほかにも民間のいくつかのグループが検証結果を単行本として刊行している。とはいえ事故は継続中であり、原因も経過も、そして現状も、なお

残る危険性も、わからないことばかりだ。国会の事故調査委員会は、調査報告書がまとまることで「事故が過去のものとされてしまうこと」への強い危惧を表明している。

●住民の不安が募る中、立地自治体・周辺自治体は、原発の運転に慎重にならざるを得ない。定期検査を受けるために停止した原発の検査後の再稼働に自治体側が同意せず、止まったままになる事態となった。自治体の同意は、法的には何ら要件ではないが、世論の動向が同意無しの再稼働を許さないものである。その結果、12年5月5日には国内全原発が止まる「原発ゼロの

日」が出現した。その後、大飯原発3、4号機が再稼働するに至ったが、約2カ月間、「ゼロの日」は続いた。

●原発の将来をどうするか。政府は12年9月14日に「革新的エネルギー・環境戦略」を定め、「2030年代に原発稼働ゼロを可能とするよう、あらゆる政策資源を投入する」とした。いかようにも解釈できる玉虫色の表現である。再処理・プルトニウム利用は当面は継続されることとなった。「国民的議論」がうたわれたが、最後は密室での政治決着だった。それ自体も見直しは必至とみられている。

## 注目語

### ▼再稼働

停止した原発を再び動かすが、再稼働である。まず原子炉を再起動し、その後、発電・送電を開始す

る。再起動すなわち再稼働と呼ぶこともできるし、発電・送電を開始したときを再稼働と呼ぶこともできる。定義は、あいまいだ。徐々に出力を上げ、フル出力で安定したところで国の検査を受け、合格すれば営

### ▼官邸前アクション

業運転が再開される。この時点で再稼働とする考え方もあり得る。2012年3月30日以降、ほぼ毎週の日曜日午後6時〜8時に首相官邸前から国会周辺で繰り広げられてい

る抗議行動。大飯原発の再稼働を首相ら4閣僚が決めようとしていることへの抗議として始まり、再稼働後は再停止を求めている。週を追って参加者は膨れ上がり、主催者発表では最大20万人に達したという。

特集

3・11後

時代観察

もんじゅ若

原子力・原発

# 地震・火山

この分野を  
読む

●2011年3月11日にマグニチュード(M)9クラスの超巨大地震である東日本大震災(東北地方太平洋沖地震)が発生し、大きな被害がもたらされた。文部科学省科学技術・学術審議会測地学分科会では、事前に超巨大地震発生の可能性を追及できなかったことを真摯に反省し、現行計画の総点検を行い、今後の地震予知研究の方向性について見直しを進めている。

●この地震については、地震発生直後から国内外の多くの研究者が地震発生過程の解析を進め、その結果、少なくとも海溝付近の地下で50以上の滑りがあったことが示された。このプレー

ト境界での滑りの特徴は、地震発生の可能性が高いとされている南海トラフ沿いの地震の今後の地震・津波防災対策にとって非常に重要な意味をもつ。

●近年地震発生に関するシミュレーション技術は進歩し、過去に発生した地震について、その発生の特徴を表現できるようになってきた。しかし、発生履歴が詳しく知られていない、この地震のような超巨大地震を発生させ得るモデルとはなっていない。これは、地震がなぜ起こるのかについての根本的理解がいまだにできていないためである。



石田瑞穂

海洋研究開発機構特任上席研究員

いしだ みずほ ●1943年生まれ。東京大学大学院博士課程修了。文部科学省防災科学技術研究所フェローを経て、現職。共著「日本列島の地震」「東京直下地震」ほか。

## 注目語

### ▼南海トラフの巨大地震

[The Nankai Trough great earthquake]

内閣府に2011年8月に設置され

た「南海トラフの巨大地震モデル検討会」において公表された、現時点での最新の科学的知見に基づき南海トラフで想定すべき最大クラスの地震。この地震による地震動・津波の検討が進められ、10月以降による津波

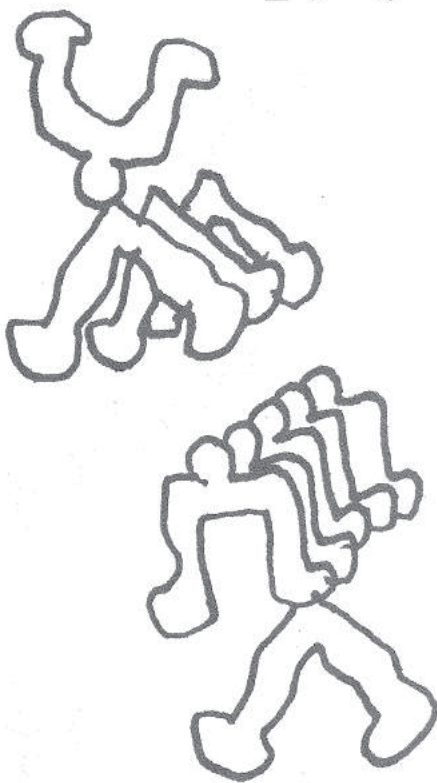
高および浸水域等の推計結果がとりまとめられた(12年8月29日)。次頁の図参照)。一方、内閣府中央防災会議の「南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ」では、この地震を対象に、当面取り組むべき具

体的な対策等を取りまとめた中間報告を策定した(12年7月19日)。これらの推定には、大滑り域および超大滑り域が1カ所の場合を「基本的な検討ケース」(計5ケース)とし、「その他の派生的な検討ケース」(計6



# 教育・学校

この分野を  
読む



鈴木真理

青山学院大学教授

すずき・まこと ●1951年静岡県生まれ。東京大学大学院修了。博士(学術)。著書『学ばないこと・学ぶこと』『ボランティア活動と集団』ほか。

勝野正章

東京大学准教授

かつの・まさあき ●1965年長野県生まれ。東京大学大学院修了。著書『教員評価の理念と政策』『教育行政学』ほか。

●大きな自然災害と人間の行動が引き起こした災害とによって、教育の領域でも大きなダメージを受けたが、復旧・復興に向けた動きがみられる。教育は、一時の熱意や社会の動きに流されるのではなく、人間が存在する限り営々と続けていかなければならないものである。

●現在の教育をめぐる動きは、明るい展望をもちにくい状況にあるという見方もできる。大阪府の教育基本条例の制定にみられるように首長が教育への関与を強めるような動きがあり、また、教育をめぐる制度についての問いかけもなされており、いくつかの府県で知事と教育委員

会との関係や教育委員会制度そのもののあり方についての検討が進められている。教育委員会制度に問題がまったくないということではないのであるが、制度を変えれば問題は解決するという発想は短絡的であろう。いじめ問題も絡み、かなり一面的な議論もなされるが、理念と現実の両面から、じっくりとかつスピーディに議論が進められるべきである。

●教育基本法では、学校・家庭・地域住民の連携の意義が強調されているが、教育といえれば学校、という発想はかえって強くなっているようである。学校支援地域本部は連携を強めるよう

にも見受けられるが、学校のための連携ということで、教員を地域から遠ざけることも憂慮される。また、社会教育行政を教育行政から首長部局に移すという動きもあるが、教育行政の中に社会教育行政が存在していることの意義を重視したい。人権を扱う博物館に、「子どもに夢を与えられない」として支援を打ち切る施策は、教育行政の論理からは考えられない。子どもを支える大人の学習・教育も視野に入れた、学校教育・社会教育双方に目配りした教育行政の活性化が期待される。

(鈴木真理)

## 注目語

### ▼大津いじめ自殺事件

2011年10月、大津市立中学2年

(当時13歳)の男子生徒が自宅マンションから飛び降り自殺した。保護者

は同級生からのいじめが原因として、市や同級生を相手に損害賠償を求めて提訴。市はいじめの存在は認めながら、自殺の原因とは特定できないとして争う姿勢をみせた。その後、学校が他の生徒から男子生徒が

いじめられているとの情報を得ていたことや、男子生徒の死後、保護者からの要求によって実施した全校生徒対象のアンケートに「先生も見て見ぬふりをしていた」「自殺の練習をさせられていた」という回答があ

ったことが判明、学校と教育委員会の対応に社会各方面から強い批判が浴びせられ、滋賀県警が教育委員会と学校を捜索する異例の展開となった。そうした経緯の中、市長も学校と教育委員会による調査の不十分さ

# 本と文芸

この分野を  
読む

●東日本大震災は出版界にも大きな影響を与えた。とりわけ印刷・製本や輸送は打撃を受け、いまだ再開の見通しが立たない書店もある。2011年中に発行された震災・原発事故関連書籍は900点を超え、震災後1年を迎えた12年3月前後にはおよそ3000点の関連書が発行された。震災直後は消費の冷え込みが予想されたが、11年の新刊書籍の国内販売額は8198億円と、前年比0.2%減にとどまった(社団法人全国出版協会・出版科学研究所調べ。以下同)。

●電子書籍をめぐる動きは活発だ。12年4月、国内の主要出版社が集まって株式会社出版デジタル機構を設立。出版社の負担を最小限にして書籍のデジタル化を進める枠組みができた。また、経済産業省は東日本大震災の被災地支援事業の一つとしてコンテンツ緊急電子化事業をスタート。13年春までに書籍6万点のデジタル化を目指す。12年7月には楽天が読書専用端末コボタツチを発売。アマゾン・ジャパンもKindleの年内発売を正式発表した。まだ市場はそれにとまっていけないが、徐々に環境は整いつつある。

●一方、11年の雑誌の推定販売金額は9844億円で前年比6.6%の減少。ついに1兆円を割り込んだ。書籍・雑誌を合わせた総販売額は1兆8042億円で、これは1986年とほぼ同じレベルである。もともと、女性ファッション誌や総合週刊誌の中には横這いからプラスに転じるものもあり、「雑誌離れ」にも底打ち感が出てきた。

## 注目誌

### ▼震災と本

東日本大震災と東京電力福島第一原発の事故の直後から、出版界ではさまざまな動きがあった。書協(社団

法人日本書籍出版協会)、雑協(社団法人日本雑誌協会)、財団法人日本出版クラブは、震災から11日後の3月22日に「大震災」出版対策本部を、同時に取協(一般社団法人日本出版取次協会)と日書連(日本書店商

業組合連合会)も参加する「大震災」出版対策連絡協議会」を設置。被災地に本を贈る「図書寄贈プロジェクト」の実施や、被災地域の小学生に図書カードを寄贈(13万2210枚、1億3221万円)。また、

岩手県陸前高田市に子ども図書館「にじのライブラリー」を開館するなどした。復興支援のためのチャリティーセールなども各所で行われている。出版物では、2011年内だけで900点を超える震災関連・原

# マンガ

この分野を  
読む



吉村和真

京都精華大学准教授

よしむら・かずま ●1971年福岡生まれ。京都精華大学国際マンガ研究センターによる本稿を代表執筆・監修。京都国際マンガミュージアム研究センター長。編著「マンガの教科書」ほか。

●いじめ問題が全国化した2012年、「マンガといじめ」について考えてみると、そこには長く深い関係があることに気づく。戦後の少年マンガを代表する手塚治虫『鉄腕アトム』。正義の味方で10万馬力のアトムだが、ロボットというだけで人間の同級生にいじめられることに悩んでいた。藤子不二雄④『魔太郎がくる!!』では、いじめられた子の主人公が「つらみはらさでおくべきか」と相手にお仕置きし、藤子・F・不二雄『ドラえもん』では、ジャイアンやスネ夫にいじわるされながらも友情や勇氣に支えられるのび太の姿が目につく。

●初期の少女マンガには、継母ものかバレエものが多かった。「トウ・シユーズに画鋏」のように、薄幸の主人公がいじめられるが最後は幸福になるという、つまりはシンデレラストーリーだ。神尾葉子『花より男子』も、貧乏で素直な女子と富豪でわがままな男子の恋愛物語。もちろん、正面からいじめを扱う作品も少なくない。

●「むかつくからいじめる」のか「気になるからいじわるする」のか、それとも「怖いから近寄らない」のか「無関心が人を傷つける」のか、問題は複雑である。だが、森川ジョージ『はじめの一步』が元いじめられた子ボクサーの内藤大助を触発したように、その複雑な現実に向き合うヒントがマンガにはあふれている。子どもたちが、そして、かつて子どもだった大人たちが、マンガとのより良い出会いを果たせますように。

## 注目語

### 銀の匙 Silver Spoon

前作の『鋼の錬金術師』で一躍人気漫画家となった荒川弘の新作として注目を集める。北海道の農業高校を

舞台に、生真面目で人間関係や進路から逃避した主人公の高校1年男子の葛藤や発見を描く新感覚の青春物語。野菜や牛乳を自作し、鶏卵や豚肉を食すために家畜を育てるなど、作物や家畜の存在意義をリアルな目

線ととらえつつ、若者離れが進む農業の「非常識な常識」をコミカルに描く。普通科とは異なる授業や寮生活の面白さ、北海道という独特の風土や気候、スケールの大きさなどもあり、地方を舞台とした学園マンガ

としても存在感が際立っている。2012年マンガ大賞受賞作。7月発行の4巻までで累計400万部を突破、部数減が進む「週刊少年サンデー」の救世主的存在としての期待も高まる。設定や内容には作者の実

趣味

ゴルフ

ゲーム

マンガ

絵本

映画

ポピュラー音楽

ペット

作家

## 三浦しをん

1年単位で「形として残る」と、  
その時代の人びとの心の動きとかが  
意識してみたいなものが、わかる。  
そこが「記録としての価値」。

創刊65周年だそうです。創刊号を実際に手に  
とってみると感慨深いですね。以前、古本屋でア  
ルバイトしていましたが、こういった年度版の出  
版物って一番手に入れにくいんですよ。古本市場  
に出品している数が圧倒的に少ない本の一つだと思  
うんです。

## 人びとの心の動き

ここ何年かの巻頭ページは写真も満載で、後々  
読み返したときに「ああこういう光景や出来事  
だったのか……」と認識できるつくりになってい  
ますね。たとえば、原発問題について考えたとき  
に「編集方針はこうだ」といったようなものがはっ  
きりわかる。

その年ごとの「空気」や、「原子力」というも  
のを人びとがどう捉えていたのか、その認識がど  
う変わっていったのか、という変遷が、1年単位  
で「形として残る」ということは、その時代の人  
びとの「意識」みたいなのが、わかるわけです  
よね。

そこに「記録としての価値」があると思うんで  
す。後から読み返したときに、何年か前の自分の

感覚と、いま現在の感覚とがまったく違うことに  
気づかされたり…。

「そういえば、こんな言葉あったよな」って記憶  
を掘り起こすこともできますし、「ある1年を振  
り返る」ために、「現代用語の基礎知識」は資料  
としての価値もあつて記録として優れていると思  
います。

普段見聞きしている事柄が載っていて、「ああ  
載ってる載ってる！」という喜びもあるし、ちよっ



と下世話な話なんかも載っていて、ニヤリ、みた  
いな……。

## 執筆者の「心意気」

バックナンバーをばらばら見ていると、「ええ？  
そんな言葉が？」と思うようなものも載ってい  
りして、楽しめます。

たとえば、創刊号では「仕事部屋」という項目  
が見つかりました。解説を見ると…

▼仕事部屋▼自宅の他に、仕事だけするために  
部屋を持つことがある。それを仕事部屋という。  
最近では、太宰治事件で、しきりと新聞誌上に現  
れた。多くの場合小説家は、この仕事部屋を個人  
的秘事を利用していろいろである。

なんて説明がされているんです。思わず噴きだ  
しました。ぜひ、そういう仕事部屋を持ちたいも  
のだ、と思います。

当時の意識としては、まじめに項目を説明し  
ているんだけど、今読むと、なんだかおかし  
い、といった「世相史」としても読めるし、執筆  
者たちの「心意気」のようなものを強く感じますね。

(聞き手・清水均)